

寒玉系キャベツの適品種を用いた夏まき4月どり作型の開発

加工業務用適性の高い寒玉系キャベツの4～5月どりは、抽だいや不結球等によって生産が安定しません。そこで、4月どりについて、寒玉系キャベツの適品種を用いた新作型を開発しました（図1）。

4月どりに適した寒玉系キャベツ品種（図2）を用いて、8月上旬から下旬播種、9月上旬から下旬定植すれば、収穫時期を引き延ばしても、裂球及び内部品質を低下させずに4月に収穫することができます（図3）。

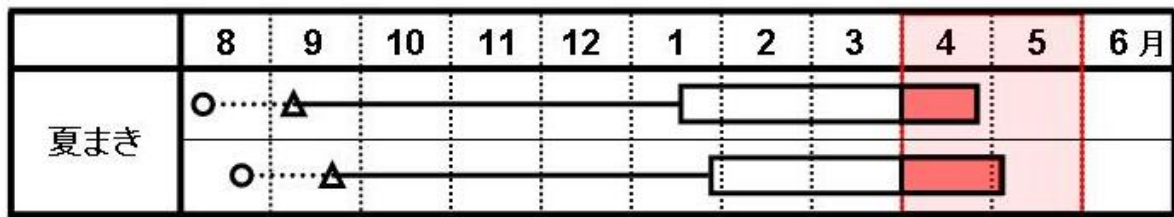


図1 4月どり寒玉系キャベツの基本作型

○：播種、△：定植、□：収穫期



図2 4月どり寒玉系キャベツの有望品種

*：T-520は残念ながら市販されていません

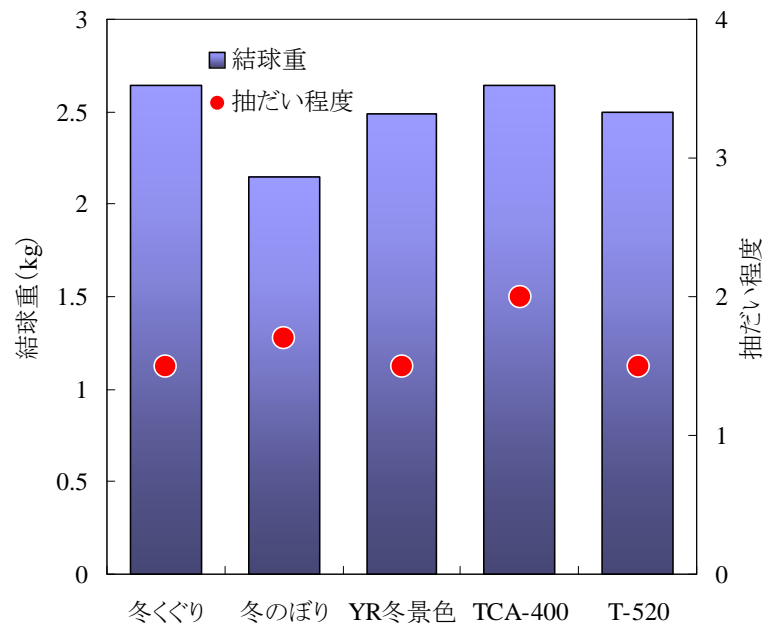


図3 各品種の結球重と抽だいで程度

注) 2008年及び2009年の3月下旬～5月上旬に調査した個体の平均値。抽だいで程度は縦断面の目視により、0：頂花蕾が確認できない（花芽分化なし）、1：頂花蕾確認、2：頂花蕾伸長初期（脇芽確認）、3：頂花蕾伸長（脇芽の肥大）、4：頂花蕾伸長甚大（節間伸長開始）（球内抽だい）の5段階で評価（抽だいで程度3に達するまでは出荷可能）